

『基本的な生活態度の形成をめざす指導』の研究 (九)

教師とM児の態度変容を追って

仏性とよ子・服部 馨

稲岡 百合・谷川 敬



(四) 愛情と信頼で結ばれるようになった教師とM児

事例 (六月八日)

M 児	教師	教師の気持
(会集室へ入らずベンチに2人の女児とM児こしかけてい	(小声で) あんたたち、会集室でおはなしきこうね。(2人の女児にいう)	・友だちといっしょに入らせようと思っ たが、かえって友だ ちの勢いで入ったよ うになると思い、や めた。 ・ M児自身に働きか け、自分で動こうと し、会集室へ自分一 人でも入って行ける 気持をもたせたかっ た。 ・ 廊下のベンチに寝
(2人の女児すぐ立 つて会集室へ入る。 M児ベンチに寝そべ って教師の顔を見て 笑っている)	Mちゃんもいこう ね。(といいながら 抱き上げ会集室へ入 る。だかれながらき やあきやあ笑う)	

(3人で顔を見合
わせ笑っている)

(さきに入った2人
の女児の傍へおろ
す)

そべったとき言葉の
働きかけの弱さを感じ、思わず抱き上げ
た。
・抱き上げながらこ
うすることがよいか
悪いかという結果よ
りも教師としてこう
しかできなかった。
M児のようすを他の
多くの子どもはどう
見ているだろう。
・このようにしてM
児が気持よく会集室
へ入ってくればと
いう教師の気持がつ
よく働いた。

(考察)

- ・自分から動こう、自分から動けた、という喜びを味わわせれば何かそれが自信につながるような気持がする。
- ・M児をまじえ3人の女兒がいた。その中の2人を先に会集室へ行かせた。M児にしてみれば、友だちとはなされ、きつと教師をいじわるく思ったであろう。
- ・教師としては、M児との人間関係を深めるため、あらゆる機会をとらえて、M児の心に入りこみ、とけ合いたいと願っている気持が2人の女兒を先に行かせたのであろう。
- ・M児が寝そべったとき、直感的に教師はM児との気持のふれ合いを感じ、自然に手をさしのべ抱き上げたのである。抱き上げたときの教師の気持は、きゃあきゃあとうれしそうにはしゃぐM児の姿にふれ、こうしたことへの自信さえわいたのである。
- ・先刻いっしょにいた2人の女兒もM児といっしょにいたことは、何かふれ合っていたものがあつたからこそいたのであると思う。M児を2人から引きはなしたのではなく、ちゃんとお友だちとして、またいっしょにいてねといった願いをこめて、2人の女兒の横へおろしたのである。
- ・M児以外の子どもはどのように教師とM児との姿を見たかということは、このときには重大なことではなく、何かに抵抗を感じてスムーズに入ろうとしないM児が、抱いてもらい喜んで気

持よきそうに入った、そのときに味わったM児と教師との人間的なふれ合いを大切にしていくなすべきではなからうか。
事例(九月三日)

M児	教師	教師の気持
<p>(リズム遊び、柿屋さん、を広い部屋でする。M児をまじえ、3人でジャンケンする。M児が勝ち、柿屋さんになる。</p> <p>(にこにこしながら大きく回って柿をうり歩く)</p> <p>(4個の中2個まで探す。教師の顔を見ながら歩く)</p> <p>わからへん(と大声で走って籠を教師の所へもってくる)</p>	<p>Mちゃん後2つ。わからなかつたら先生に籠かしてね。</p>	<p>・全園児のいる前へ出てくるか心配である。でもじつと見ていよう。</p> <p>・Mちゃん、よくこられたのねと大声でほめてやりたかった。</p> <p>・他の子どもと同じように、にこやかにふるまっているように何かしら気持のはればらしい思いがした。</p> <p>・どうしてあんな大きい声が出たのだろうか、柿屋さんになってまわつたことがうれしかったのだろうか。</p>

(考察)

・会集室へ入ることもためらわず、いつも皆から遠のいていたのに、珍しくリズム遊びの仲間入りをしているM児の所へも赤い柿が渡される。もらってくれるだろうか、といった教師の心配をよそに、さらりと受け取ってにこにこしている。会集室へ自分から入った今日のM児の気持は、はればれとしていたであらう。

・M児が全園児の前でジャンケンをしなくてはならなくなった。またここで教師の心配があった。出なければもう一人の子どもにもわるいように思えるし、M児自身が自分から動こうとするよい機会だけに教師の期待は大きかった。

・教師の期待を裏切らず全園児の前で大声でジャンケンをし、柿屋さんになって得意になって売り歩くM児を見てみると、最初から見守ってやり、直接教師が声をかけ、励まさなくても、教師の表情・感情の中にM児を見はなせない何かがあり、その何かとのM児のふれ合いにより、自由にふるまえたのではなからうか。

・もう一步のぞむならば、困った、いやだと思ったことを自分で教師に見守られながら乗り越えて欲しかった。M児以外の子どもであれば、当然のぞまれてよいことかもしれないが、現在のM児にはまだ立ち向かっていくだけの根性がなく、それをしい

ることににより、M児にむり強いをしているようにさえ思えたのである。

・柿屋をうまくやらせることにより、どのようにM児がその経験に立ち向かおうとしているか、その姿勢、その態度、かまえを大切に育てていつてやるべきではないだろうか。

・4個の中2個まで売り歩いた柿を探しあて、その後2個がわからなかったのか、ちょっと表情が変わった。このときにいやだなあ、困ったといった不快感を味わわせることはM児にとって、折角自分から自由にふるまえた、これからの自信につながるうとする芽がくじけそうに教師には感じられたので、籠をかえすようにいったのである。

今まで教師対M児、M児対A児と、M児の動く範囲はごく限られたものであった。しかし今日は、会集室で百人余りの真中に立ち、リズム遊びを積極的にしようとうごいているこのM児に対して、教師のほうがかえって不安となり、なんとか助けなければいけないのではないかと心配した。しかしM児は、教師のこの気持をよそにピアノにあわせて堂々とやっている。やっているからといって、M児があんなに自由にふるまっているのは、やはりやっているからといって心をはなせない。教師との心のつながりがあるからだろうか。ともか

く新しいことには全然立ち向かおうとしなかったM児が、教師との心のつながりをよりどころに、それに立ち向かっていこうとした尊い姿が見られた。

(六) 環境に適応できるようになった事例 (九月三日)

M 児	教師	教師の気持
<p>(A児、B児2人が遊んでいる)</p> <p>M児ついてくる) この人もまぜてな (とA) ええわ(とB)</p> <p>(病院ごっこの仲間入りして、患者になって注射してもらったり、おでこを冷したり、テレビ《子ども</p>	<p>AちゃんあそのベンチにMちゃん一人 でいるし、よんであげたら?</p>	<p>・ M児の遊んでいる ようすや場所が気になる。 ・ 誰かM児に気がつき誘ってくれたらと願う。 ・ 友だちにさそって もらった方が、教師 がさそってやるより 自然に遊ぶのではない だろうか。 ・ A児のやさしい心 根が、しみじみ素朴 な言葉のなかにかん じられる。 ・ 楽しんで遊べてよ</p>

ものつくったもの」
をかけて遊びだす)

かった。M児の気持
は、はれはれしてい
ることだろう。

(考察)

- ・ M児が笑顔で遊びに夢中になっていると、教師には安心感がわき、何ともいえぬ嬉しさがこみ上げてくる。このM児も今日一日有意義にすごせる確信といったものから安心感がわくのではなからうか。
- ・ A児が、ベンチに腰かけているM児に気づいてくれればとさりげなくいってみる。教師がさそわず、友だちによって遊びに入っているように向けたと思った。
- ・ 五歳の子どもには自分のこと以外の友だちのことを思いやる段階に至っていないのかもしれないが、M児が自分から仲間入りしようとしてもできないが、この場合教師としては、仲間入りしようとしている気持を理解することが大切であると思った。
- しかし教師が誘って入れたのでは、受け入れ側の子どもが、いやでも先生がいわれるからしかたがない、という気持でM児を仲間入りさせたくない。そこで友だちにさそいにいかせ、仲間入りも子ども同士でしていくようにしようとした。
- ・ 友だちによばれてきたM児が、遊びの場を見ていやだと思っただけであったなら、M児に対する教師の理解の仕方、ひいては、

子ども全般の理解の仕方に、まちがいがあつたのではないかと

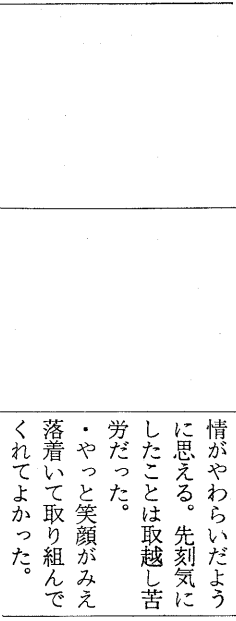
いうことを、教師は心配せざるを得ない。

・子どもが今何を思い何を感じているかをキヤッチする場合、五歳児の尺度、年長児の尺度をもってはかるのではない。M児にはM児のものさしでもって、はかりしる必要がある。教師は一つ二つの尺度でなく37人の受持ちであるならば、37通りの尺度をもっていなければならないと思われる。

M児の遊びが少しずつできかけてきた。しかし教師はその遊んでいる所やその表情が気になるのである。ただ遊んでおればよいというのではない。友だちの中で友だちのいいなりになり、遊んでもらっているのでは、教師の気持がおさまらない。そうしてどんなきさいなことであっても、M児自身が能動的になり、みづからたのしく、うれしいといった感情をもつことのできる遊びであってほしいと思うのである。そこで教師は、A児をまじえてM児が自分をうちだせるような、ふんいきへきそってやろうと努力した。この場合も、教師はまげてあげてとはいわず、友だちの受け入れによってM児自身に安心感をもって自然な形で行なわそうとしているのである。この頃のM児は、友だちからも受け入れられるM児に成長してきているといつてよい。

事例（十月三日）

M 児	教師	教師の気持
<p>（保育室で人形遊びをしている。M児をまじえて6人の女児、M児ごぎの上に乗がっているが不機嫌そう）</p>	<p>Aちゃん、Mちゃん何してはるの（と小声できく）</p>	<p>・M児何もしゃべらず、つまらなさそうなる表情でいるので気になる。</p> <p>・何か目的をもっているのかとA児にきいてみた。</p> <p>・M児にきいても答えてくれそうもない。どうしたらいいだろう、と迷った。</p> <p>・A児にきいたがはつきりしない。人形ごっこのグループの一員として見ていないので教師がきそつてみる。</p>
<p>（教師の手をもち、布切れ遊びの所をつくる）</p> <p>（教師のもつてきた椅子にこしかける）</p>	<p>Mちゃん、布切れで遊んではるし、見てくださいようか。</p> <p>Mちゃん、ほーらおいすおくわね。</p> <p>Mちゃん、美しい布があつたらお友だちにあげてね。</p>	<p>Mちゃん、美しい布があつたら、友だちにあげてね。</p> <p>・M児におしつけたのではないが、人形ごっこの方がよかつたのだからかと気になる。</p> <p>・ここの場所の方がおちつけるのか、表</p>
<p>（だまつてうなずく）</p> <p>（美しいと思う布を自分が布箱の中へ入りこんで友だちにわたします）</p>	<p>Mちゃん、美しい布があつたら、友だちにあげてね。</p>	<p>・M児におしつけたのではないが、人形ごっこの方がよかつたのだからかと気になる。</p> <p>・ここの場所の方がおちつけるのか、表</p>



情がやわらいだように思える。先刻気にしたことは取越し苦労だった。
 ・やっと笑顔がみえ
 落着いて取り組んでくれてよかった。

(考察)

・人形ごっこのグループに入っているが、友だちもM児に何かの役目を与えることもなく、自分勝手、勝手に遊んでいる。M児はその場にいるだけでそのグループにとけこんで遊んでいないのである。

・とげこめないまま、その場にいるだけではM児は可愛そうである。もっと楽しいふんいきの中で過ごさせたいと思う気持、なるべくなら人形ごっこのグループの中で過ごさせたいと、他の子どもにもM児の存在をきいてみたが、はっきり意識の中にならしない。

・自分から折角入ったグループで人形ごっこをしていたのを、教師が連れ出す形となったが、M児が布遊びをしている表情や、布を選んで友だちに与えているようにすを見てこの場合、連れ出した方が生き生き遊べたように思えた。

・遊びの仲間に入っておりさえすればよいだけではなく、その中

でどのような位置をしめ、友だち同士互いに心のふれ合いをもつて、遊んでいるかを見極めることも大切な一つの教師の役目ではなからうか。形だけ友だちといつた過ごし方をしていては何日たっても、その子の成長はのぞめないのではないか。自分の思ったこと、感じたことが素直にだせるような、ふんいきの場においてやるのが大切ではなからうか。

この頃のM児は明るい表情で遊んでいる。しかしこのように遊んではいるが、何か無表情、無感動な表情が見られると教師はそれが気になり、なんとか明るい表情で遊びを楽しんでほしいと願うのである。そのためには、遊びをかえなければならぬ。ところで今日は教師が働きかけて、異なった遊びの場へさそい入れたのである。すぐにM児は異なった布遊びのグループへ何のためらいもなく入っていきけるようにまで成長してきている。しかもすぐ仲間入りして、布箱の中に入って美しい布切れを自分で選び、友だちに渡している。そこに自分の占めている位置、役目、といったものに満足し、活発に動いているM児の姿が見られたのである。同じM児がちがったグループに入り自分から活発に動けたことは、グループの子どもがM児に対しての受入れの姿勢があったと共に、M児自身が素直にそのグループと自然にとげこめるまでに成長してきた現われである。

(天津市立大津幼稚園)